

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専修学校インターナショナルデザインアカデミー
設置者名	学校法人KBC学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
文化教養 専門課程	総合デザイン科 グラフィックデザインコース	夜・通信	280時間	240時間	
	総合デザイン科 デジタルデザインコース	夜・通信	278時間	240時間	
	総合デザイン科 マンガデザインコース	夜・通信	240時間	240時間	
	総合デザイン科 ファッションコース	夜・通信	270時間	240時間	
	クリエイティブデザイン科 グラフィック・ウェブ・映像コース	夜・通信	12単位	10単位	
	クリエイティブデザイン科 イラスト・マンガコース	夜・通信	11単位	10単位	
	グラフィック・ウェブ・映像科	夜・通信	7単位	7単位	
	イラスト・マンガ科	夜・通信	11単位	7単位	
工業 専門課程	インテリア・建築デザイン科	夜・通信	290時間	240時間	
	インテリア・建築デザイン科(2年制)	夜・通信	7単位	7単位	
(備考) ※総合デザイン科は、令和7年度より「クリエイティブデザイン科」に名称変更、またインテリア・建築デザイン科は、令和7年度より募集停止のため授業時間数にて記載しています。(3年次のみ在籍)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="https://www.ida.ac.jp/information/public/">https://www.ida.ac.jp/information/public/</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専修学校 インターナショナルデザインアカデミー
設置者名	学校法人KBC学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ上において公表 <a href="https://kbcgroup.ac.jp/public">https://kbcgroup.ac.jp/public</a>
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員	令和8年6月4日～	学園運営に対する 助言・コンプライア ンス
非常勤	学校法人役員	令和8年6月4日～	学園運営に対する 助言・コンプライア ンス
(備考) 任期:令和8年6月4日～3年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する 定時評議員会の終結の時まで			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専修学校 インターナショナルデザインアカデミー
設置者名	学校法人KBC学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>○教育課程編成計画(カリキュラム)</p> <p>毎年6月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。</p> <p>11月に第2回教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識；技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。</p> <p>○授業計画(シラバス)</p> <p>上記により確定したカリキュラムを基に3月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。</p> <p>○公表</p> <p>確定したカリキュラム及びシラバスを学校HPにて公開し学生へその旨告知を行う。</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="https://www.ida.ac.jp/information/public/">https://www.ida.ac.jp/information/public/</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的に評価しています。修了制作、卒業制作については、1年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品のプレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価しています。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。</p> <p>科目の出席状況の基準として80%以上を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)          学習意欲の把握、試験やレポート、作品制作評価などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して履修を認定します。          G P Aの算出式は下記に示すとおりです。          &lt;1&gt;試験得点に応じて5段階(3.0、2.0、1.0、0)の数値(グレード・ポイント)を設定します。なお、受講を途中でやめた科目や不合格となった科目はグレード・ポイントが0点となります。          &lt;2&gt;各履修科目のグレード・ポイントに、科目の時間数をかけた値を全履修科目分合算し、その値を全履修科目の時間数の合計で割ったものがG P Aとなります。          成績評価基準及びG P A算出方法を学校H Pにて公開し年度開始毎に学生へオリエンテーションにて開示を行います。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p><a href="https://www.ida.ac.jp/information/public/">https://www.ida.ac.jp/information/public/</a></p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)          各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。          卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。          学生へは年度開始毎にオリエンテーションにて開示し提示するとともにH Pでも公開を行う。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p><a href="https://www.ida.ac.jp/information/public/">https://www.ida.ac.jp/information/public/</a></p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専修学校インターナショナルデザインアカデミー
設置者名	学校法人KBC学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://kbcgroup.ac.jp/public">https://kbcgroup.ac.jp/public</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://kbcgroup.ac.jp/public">https://kbcgroup.ac.jp/public</a>
財産目録	<a href="https://kbcgroup.ac.jp/public">https://kbcgroup.ac.jp/public</a>
事業報告書	<a href="https://kbcgroup.ac.jp/public">https://kbcgroup.ac.jp/public</a>
監事による監査報告（書）	<a href="https://kbcgroup.ac.jp/public">https://kbcgroup.ac.jp/public</a>

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報（1）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門課程	総合デザイン科 グラフィックデザインコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数または総時間数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2,617 単位時間/単位	263 単位時間 /単位	単位時間 /単位	539 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			802 単位時間/単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
23 人の内数		6 人	0 人	2 人	13 人	15 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>○教育課程編成計画（カリキュラム） 毎年6月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。 11月に第2回教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識；技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。</p> <p>○授業計画（シラバス） 上記により確定したカリキュラムを基に2月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的</p>

に評価する。修了制作、卒業制作については、1年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品プレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価する。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。科目の出席状況の基準として80%以上を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。
学修支援等
(概要) クラス担任制として、個別対応を行っている。定期的な個別面談を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
8人 (100%)	人 (%)	8人 (100%)	人 (%)
(主な就職、業界等) 株式会社サン・エージェンシー、株式会社エマエンタープライズ、株式会社ミヤギパッケージ、他			
(就職指導内容) 就職個別指導、合同企業説明会、企業個別説明会			
(主な学修成果(資格・検定等)) 複数の企業依頼案件、公募入賞、Illustrator、Photoshopクリエイター能力検定試験取得			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
15人	1人	6.7%
(中途退学の主な理由) 精神疾患での不登校		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による細かなガイダンスと共に、教育支援担当でのメンタルケアを行う 学生個別の対処法について学校・学生・保護者の三者で情報共有し立ち直りを促す		

①学科等の情報（２）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門課程	総合デザイン科 デジタルデザインコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数または総時間数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2,581 単位時間／単位	236 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	566 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			802 単位時間／単位				
学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
23 人の内数	4 人	0 人	2 人	11 人	13 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>○教育課程編成計画（カリキュラム） 毎年 6 月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。 11 月に第 2 回教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識；技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。</p> <p>○授業計画（シラバス） 上記により確定したカリキュラムを基に 2 月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的に評価する。修了制作、卒業制作については、1 年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品プレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価する。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。科目の出席状況の基準として 80%以上を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>クラス担任制として、個別対応を行っている。 定期的な個別面談を実施する。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容）			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項） 2025年度、卒業生なし			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
4人	0人	0.0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任による細かなガイダンスと共に、教育支援担当でのメンタルケアを行う 学生個別の対処法について学校・学生・保護者の三者で情報共有し立ち直りを促す		

① 学科等の情報（3）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門課程	総合デザイン科 マンガデザインコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数または総時間数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2,617 単位時間/単位	134 単位時間 /単位	単位時間 /単位	920 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1,054 単位時間/単位				
学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
23 人の内数	2 人	0 人	2 人	13 人	15 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>○教育課程編成計画（カリキュラム） 毎年 6 月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。 11 月に第 2 回教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識；技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。</p> <p>○授業計画（シラバス） 上記により確定したカリキュラムを基に 2 月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的に評価する。修了制作、卒業制作については、1 年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品プレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価する。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。科目の出席状況の基準として 80%以上を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>クラス担任制として、個別対応を行っている。 定期的な個別面談を実施する。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
3人 (100.0%)	人 ( %)	0人 (0.0%)	3人 ( 100.0%)
（主な就職、業界等） 個人の都合で就職を希望せず			
（就職指導内容） 自己発見検査、就職個別指導、合同企業説明会、企業個別説明会			
（主な学修成果（資格・検定等）） 出版社持ち込み添削、各種企業依頼案件（県、国）、Photoshop クリエイター能力検定試験取得			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
6人	1人	16.7%
（中途退学の主な理由） 経済的な理由で通学が困難になった。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任による細かなガイダンスと共に、教育支援担当でのメンタルケアを行う 学生個別の対処法について学校・学生・保護者の三者で情報共有し立ち直りを促す		

① 学科等の情報（４）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門課程	総合デザイン科 ファッションコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数または総時間数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2,599 単位時間／単位	285 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	517 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			802 単位時間／単位				
学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
23 人の内数	5 人	0 人	2 人	11 人	13 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>○教育課程編成計画（カリキュラム） 毎年 6 月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。 11 月に第 2 回教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識；技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。</p> <p>○授業計画（シラバス） 上記により確定したカリキュラムを基に 2 月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的に評価する。修了制作、卒業制作については、1 年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品プレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価する。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。科目の出席状況の基準として 80%以上を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>クラス担任制として、個別対応を行っている。 定期的な個別面談を実施する。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
3人 (100.0%)	人 ( %)	3人 (100.0%)	人 ( %)
（主な就職、業界等） OWNDAYS 株式会社、琉球ワークス株式会社 ナゴグローサリーストア、他			
（就職指導内容） 自己発見検査、就職個別指導、合同企業説明会、企業個別説明会			
（主な学修成果（資格・検定等）） 出版社持ち込み添削、各種企業依頼案件（県、国）、Photoshop クリエイター能力検定試験取得			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
8人	0人	0.0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任による細かなガイダンスと共に、教育支援担当でのメンタルケアを行う 学生個別の対処法について学校・学生・保護者の三者で情報共有し立ち直りを促す		

① 学科等の情報（５）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門課程	クリエイティブデザイン科 グラフィック・ウェブ・映像コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	93 単位	12 単位	50 単位	31 単位	単位	単位
			93 単位時間／単位				
学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
30 人の内数	13 人	0 人	2 人	11 人	13 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>○教育課程編成計画（カリキュラム） 毎年 6 月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。 11 月に第 2 回教育課程編成委員会を開催。。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識；技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。</p> <p>○授業計画（シラバス） 上記により確定したカリキュラムを基に 2 月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的に評価する。修了制作、卒業制作については、1 年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品プレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価する。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。科目の出席状況の基準として 80%以上を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>クラス担任制として、個別対応を行っている。 定期的な個別面談を実施する。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容） 自己発見検査、就職個別指導、合同企業説明会、企業個別説明会			
（主な学修成果（資格・検定等）） 各種企業依頼案件、Illustrator、Photoshop クリエイター能力検定試験取得			
（備考）（任意記載事項） ※令和7年度からの募集開始のために卒業生の在籍がありません			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
6人	1人	16.7%
（中途退学の主な理由） 進路変更のため		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任による細かなガイダンスと共に、教育支援担当でのメンタルケアを行う 学生個別の対処法について学校・学生・保護者の三者で情報共有し立ち直りを促す		

① 学科等の情報（6）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門課程	クリエイティブデザイン科 イラスト・マンガコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	93 単位	9 単位	64 単位	28 単位	単位	単位
			101 単位時間／単位				
学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
30 人の内数	16 人	0 人	2 人	8 人	10 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>○教育課程編成計画（カリキュラム） 毎年6月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。 11月に第2回教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識；技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。</p> <p>○授業計画（シラバス） 上記により確定したカリキュラムを基に2月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的に評価する。修了制作、卒業制作については、1年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品プレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価する。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。科目の出席状況の基準として80%以上を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>クラス担任制として、個別対応を行っている。 定期的な個別面談を実施する。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容） 自己発見検査、就職個別指導、合同企業説明会、企業個別説明会			
（主な学修成果（資格・検定等）） 出版社持ち込み添削、各種企業依頼案件（県、国）、Photoshop クリエイター能力検定試験取得			
（備考）（任意記載事項） ※令和7年度からの募集開始のために卒業生の在籍がありません			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
3人	人	0.0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任による細かなガイダンスと共に、教育支援担当でのメンタルケアを行う 学生個別の対処法について学校・学生・保護者の三者で情報共有し立ち直りを促す		

① 学科等の情報（7）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門課程	グラフィック・ウェブ・映像科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	62 単位	12 単位	25 単位	25 単位	単位	単位
			62 単位時間／単位				
学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
45 人	37 人	0 人	2 人	9 人	11 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>○教育課程編成計画（カリキュラム）  毎年6月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。  11月に第2回教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識；技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。</p> <p>○授業計画（シラバス）  上記により確定したカリキュラムを基に2月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的に評価する。修了制作、卒業制作については、1年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品プレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価する。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。科目の出席状況の基準として80%以上を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>クラス担任制として、個別対応を行っている。  定期的な個別面談を実施する。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容） 自己発見検査、就職個別指導、合同企業説明会、企業個別説明会			
（主な学修成果（資格・検定等）） 各種企業依頼案件、Illustrator、Photoshop クリエイター能力検定試験取得			
（備考）（任意記載事項） ※令和7年度からの募集開始のために卒業生の在籍がありません			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22 人	1 人	4.5%
（中途退学の主な理由） 進路変更のため		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任による細かなガイダンスと共に、教育支援担当でのメンタルケアを行う 学生個別の対処法について学校・学生・保護者の三者で情報共有し立ち直りを促す		

① 学科等の情報（8）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
文化教養		文化教養専門課程	イラスト・マンガ科	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2年	昼間	62 単位	7 単位	41 単位	22 単位	
			70 単位時間／単位			
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
55 人		51	0 人	2 人	7 人	9 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>○教育課程編成計画（カリキュラム） 毎年6月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。 11月に第2回教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識；技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。</p> <p>○授業計画（シラバス） 上記により確定したカリキュラムを基に2月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的に評価する。修了制作、卒業制作については、1年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品プレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価する。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。科目の出席状況の基準として80%以上を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>クラス担任制として、個別対応を行っている。 定期的な個別面談を実施する。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容） 自己発見検査、就職個別指導、合同企業説明会、企業個別説明会			
（主な学修成果（資格・検定等）） 出版社持ち込み添削、各種企業依頼案件（県、国）、Photoshop クリエイター能力検定試験取得			
（備考）（任意記載事項） ※令和7年度からの募集開始のために卒業生の在籍がありません			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
29 人	人	0.0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任による細かなガイダンスと共に、教育支援担当でのメンタルケアを行う 学生個別の対処法について学校・学生・保護者の三者で情報共有し立ち直りを促す		

①学科等の情報（9）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	インテリア・建築デザイン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数または総時間数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2,553 単位時間／単位	400 単位時間 /単位	単位時間 /単位	400 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			800 単位時間／単位				
学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
15人	11人	0人	3人	10人	13人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>○教育課程編成計画（カリキュラム）</p> <p>毎年6月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。</p> <p>11月に第2回教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識；技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。</p> <p>○授業計画（シラバス）</p> <p>上記により確定したカリキュラムを基に2月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的に評価する。修了制作、卒業制作については、1年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品プレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価する。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。科目の出席状況の基準として80%以上を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>クラス担任制として、個別対応を行っている。</p> <p>定期的な個別面談を実施する。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
19人 (100.0%)	人 ( %)	18人 (94.7%)	1人 (5.3%)
（主な就職、業界等） 株式会社アレックス、アイ工務店、他			
（就職指導内容） 自己発見検査、就職個別指導、合同企業説明会、企業個別説明会			
（主な学修成果（資格・検定等）） 各種企業依頼案件、Okinawa Idea Design Contest 入賞、建築CAD検定2級取得			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
20人	0人	0.0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任による細かなガイダンスと共に、教育支援担当でのメンタルケアを行う 学生個別の対処法について学校・学生・保護者の三者で情報共有し立ち直りを促す		

①学科等の情報（10）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	インテリア・建築デザイン科（2年制）	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	講義
2年	昼間	62単位	40 単位	14 単位	8 単位	単位	単位
			62単位時間／単位				
学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20人	18人	0人	2人	9人	11人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>○教育課程編成計画（カリキュラム） 毎年6月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。 11月に第2回教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識；技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。</p> <p>○授業計画（シラバス） 上記により確定したカリキュラムを基に2月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的に評価する。修了制作、卒業制作については、1年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品プレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価する。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。科目の出席状況の基準として80%以上を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>クラス担任制として、個別対応を行っている。 定期的な個別面談を実施する。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容） 自己発見検査、就職個別指導、合同企業説明会、企業個別説明会			
（主な学修成果（資格・検定等）） 各種企業依頼案件、Okinawa Idea Design Contest 入賞、建築CAD検定2級取得			
（備考）（任意記載事項） ※令和7年度からの募集開始のために卒業生の在籍がありません			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22人	1人	4.5%
（中途退学の主な理由） 進路変更のため		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任による細かなガイダンスと共に、教育支援担当でのメンタルケアを行う 学生個別の対処法について学校・学生・保護者の三者で情報共有し立ち直りを促す		

②学校単位の情報

a) 「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
総合デザイン科	100,000 円	830,000 円	円	
クリエイティブデザイン科	150,000 円	830,000 円	円	
グラフィック・ウェブ・映像科	150,000 円	830,000 円	円	
イラスト・マンガ科	150,000 円	830,000 円	円	
インテリア・建築デザイン科	100,000 円	830,000 円	円	
インテリア・建築デザイン科 (2年制)	150,000 円	830,000 円	円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.ida.ac.jp/information/public/">https://www.ida.ac.jp/information/public/</a>		
第三者評価の基本方針 (実施方法・体制) 学校が行う運営によって直接・間接的に影響を受ける企業や高校教員、保護者等によって構成される委員を選定し、①教育理念・目標、②学校運営、③教育活動、④学修成果・教育成果、⑤学生支援、⑥教育環境、⑦学生の受入れ募集、⑧教育の内部質保証システム、⑨財務、⑩社会貢献・地域貢献の10項目68点検項目の評価結果に基づき学校関係者評価委員会を開催する。 学校評価の結果をふまえ、中期経営計画、次年度業務計画策定時の改善に繋げる。自己点検評価、学校関係者評価報告書を作成しホームページにて公開する。また全職員で共有する機会を持つ事とする。		
第三者評価の委員		
所属	任期	種別
沖縄県具志川商業高等学校 校長	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日	学校関連
有限会社マンゴハウス	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日	グラフィックデザイン 分野卒業生
SUBAKO DESIGN	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日	デジタルデザイン分野 卒業生
フリーランス (イラストレーター&マンガ家)	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日	マンガデザイン分野 卒業生
第三者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.ida.ac.jp/information/public/">https://www.ida.ac.jp/information/public/</a>		
(備考)		

第三者評価の実施は無し

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

<https://www.ida.ac.jp/>